ウクライナ支援写真展

AMDAが堺市で開く

ハンガリーでウクライナ避難民の医療支援に取り組む認定NPO法人AMDA（本部＝岡山市）は2日から4日まで、大阪府堺市のコクリコさかいで写真展「写真で語るウクライナ避難者支援」を開催した。

AMDAはロシアによるウクライナ侵略の人道危機発生以後、隣国ハンガリーでの支援活動をスタート。特定非営利活動法人TICO（本部＝徳島県吉野川市）と合同医療チームを作り、これまでに医師5人、看護師6人、調整員3人をハンガリーに派遣した。主な活動地は多くのウクライナ人が避難する、国境近くのベレグスラーニーやキシュバールダ。またウクライナ国内避難者へも医薬品や医療機器、食品や車両などの支援を行っている。

治療や交流の模様を展示。子どもたちの絵も

治療の様子や、子どもたちとのふれあいの模様を大きな写真パネルで展示。「私は毎日神に祈ります。それがすべて悪魔のように私たちに起こるのは残念です」といった避難民からのメッセージも紹介された。布キャンパスに子どもたちが手形や国旗をのびのびと描いた平和を願う絵も。

何度も現地入りをしている難波妙理事は「ウクライナの人々も、こうなる前は教会に行って何気ないお話をして暮らすのが日常だった。今はそれもできず、心の拠り所を失っている」と危機感を募らせ、日本の宗教者にとっても決して遠い国の他人事ではないと話した。

写真展は本部のある岡山市で8月に行ったのに続く2回目。堺市の浄土宗正明寺の森俊英住職が、檀信徒からのウクライナ人道支援浄財をAMDAに寄付したことから縁が生まれての開催となった。「実際に我々がハンガリーやウクライナに行くことは難しくても、活動する人を支援し、その活動を市民の皆様に伝えるのも宗教者の役目ではないでしょうか」と森住職は話す。